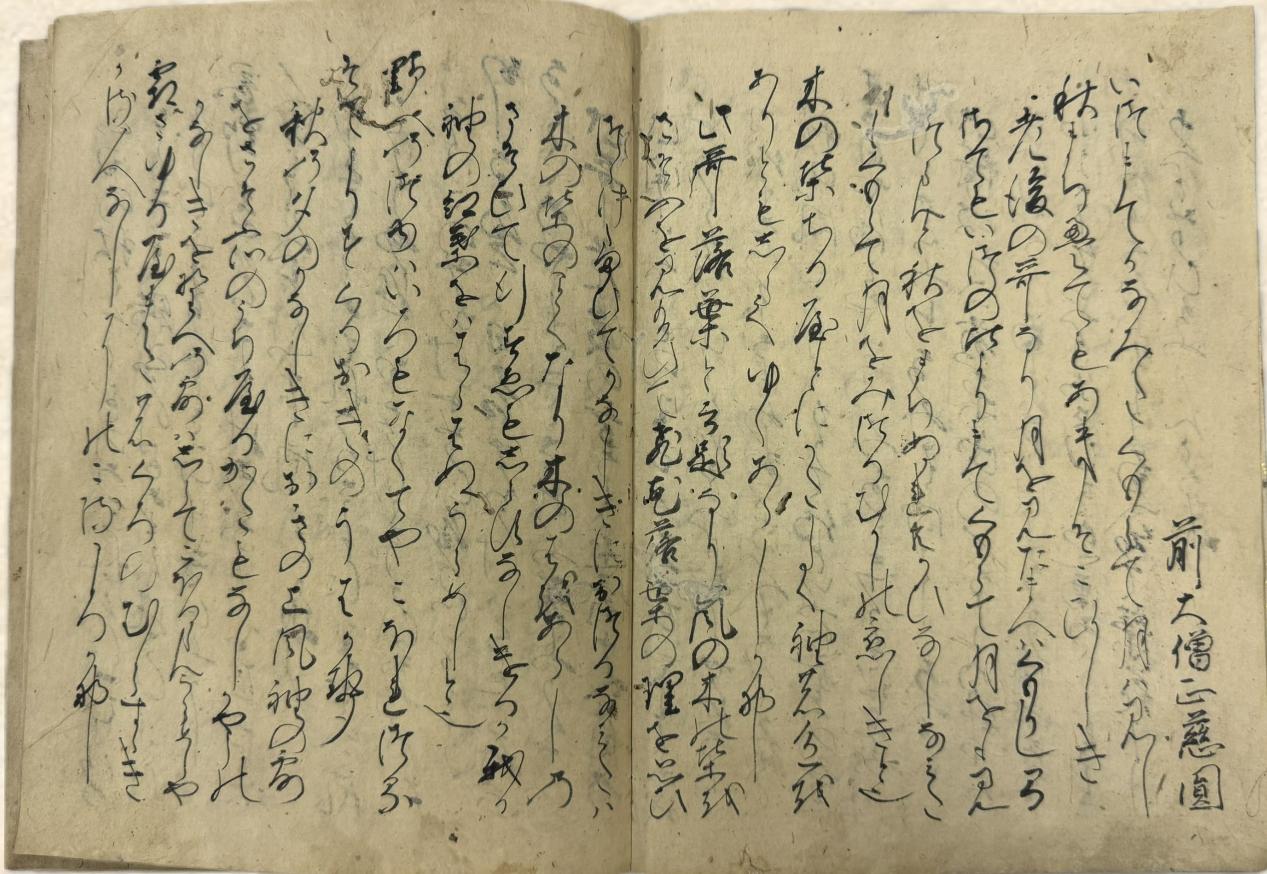
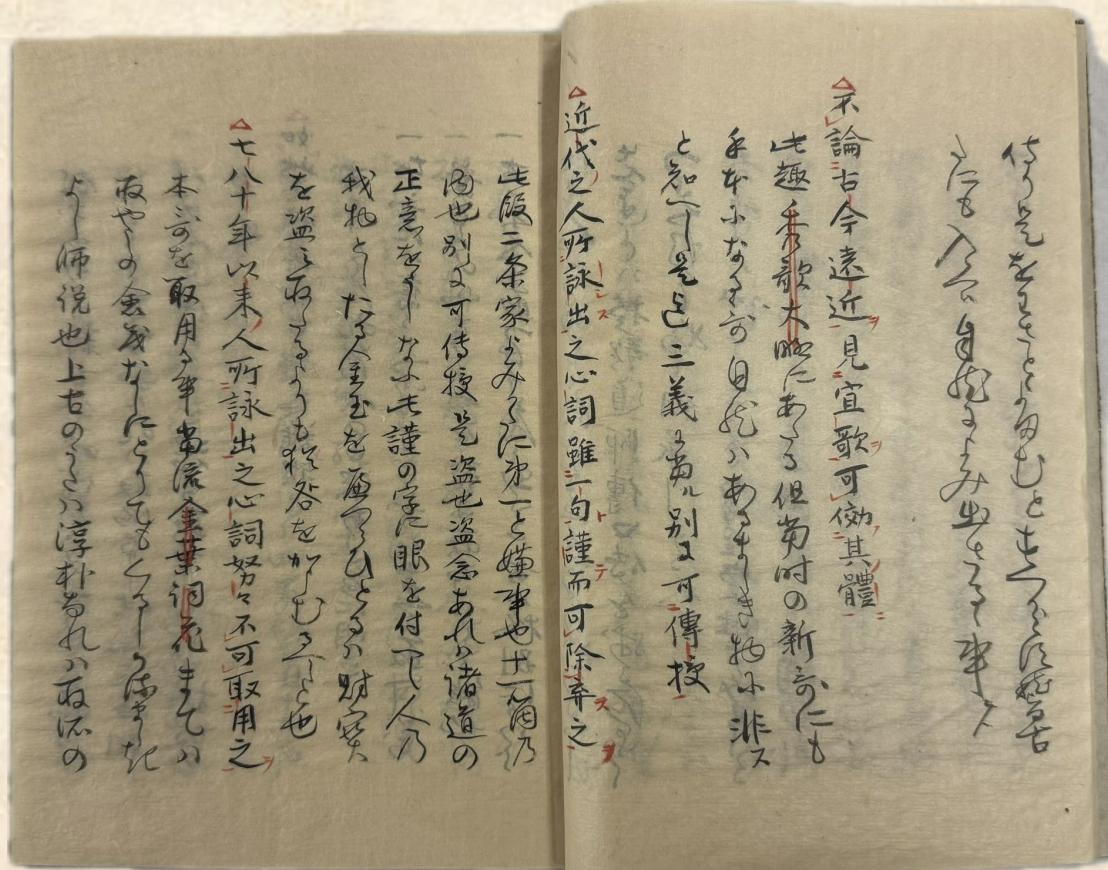


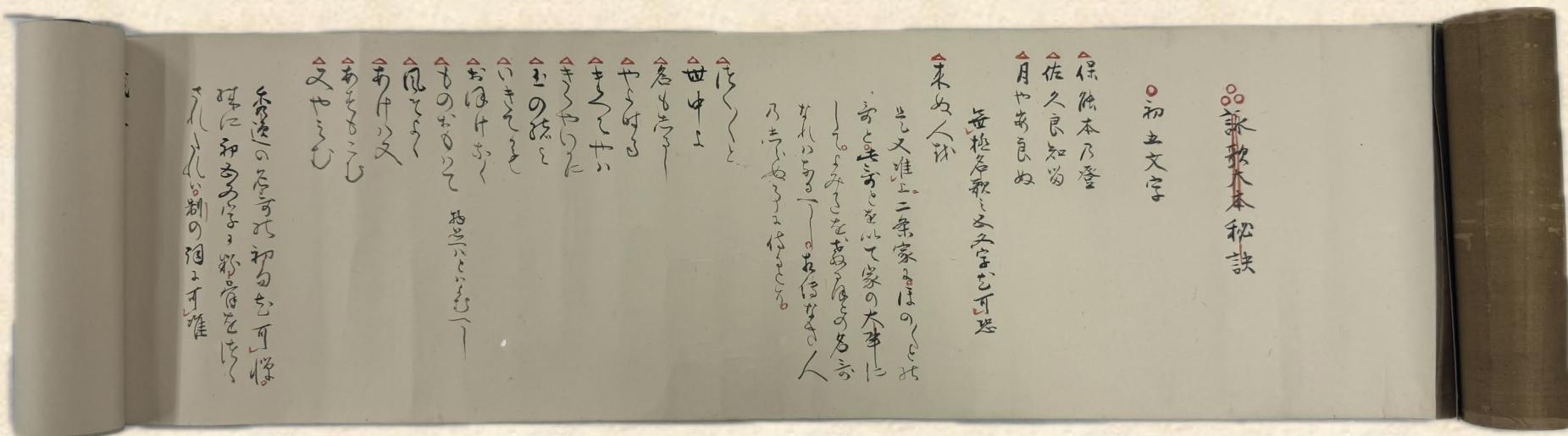
『自讚歌注』 写 一冊



古今伝授箱 五巻七冊入 より 『詠歌大概安心秘訣』



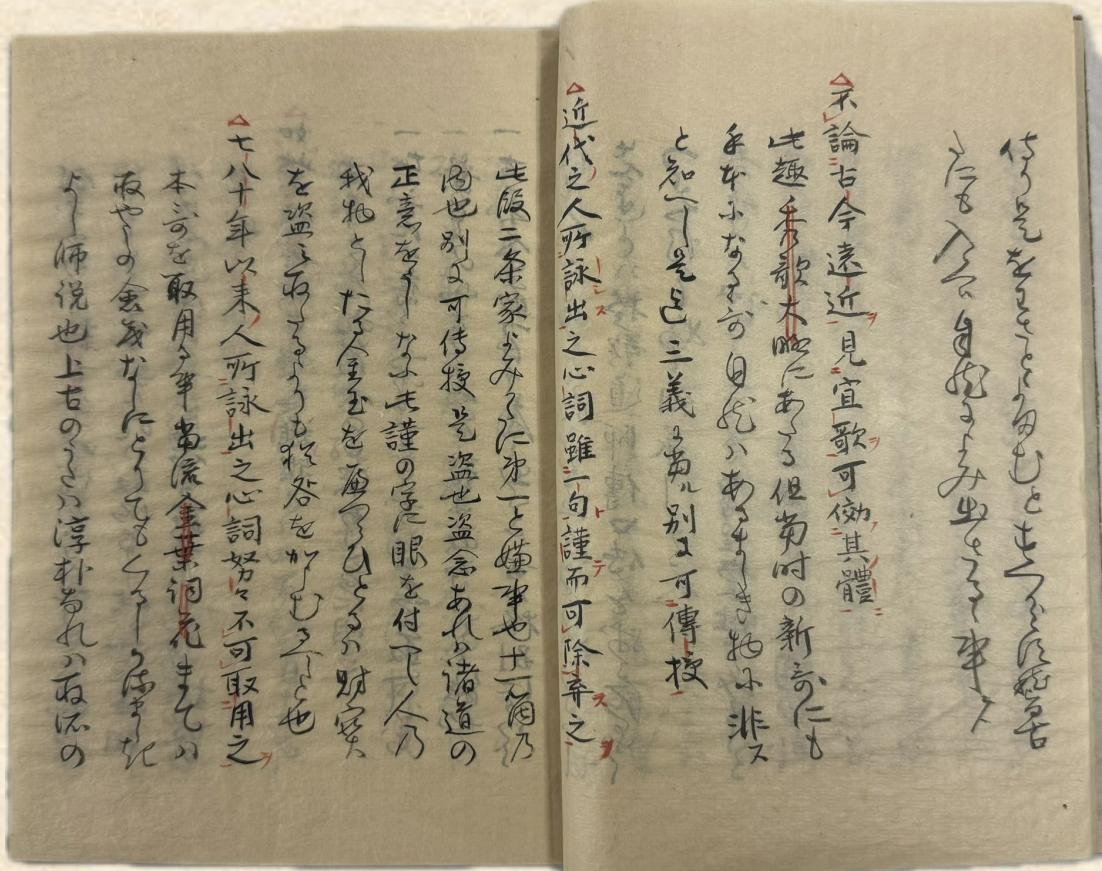
古今伝授箱 五巻七冊入 より 『詠歌大本秘訣』



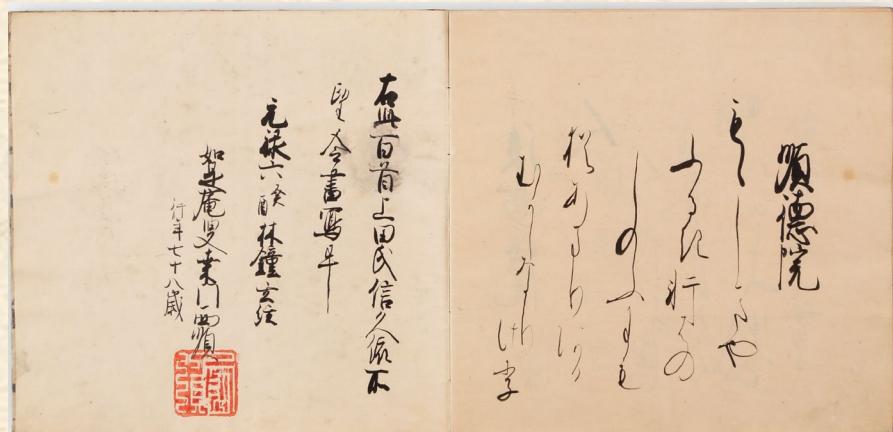
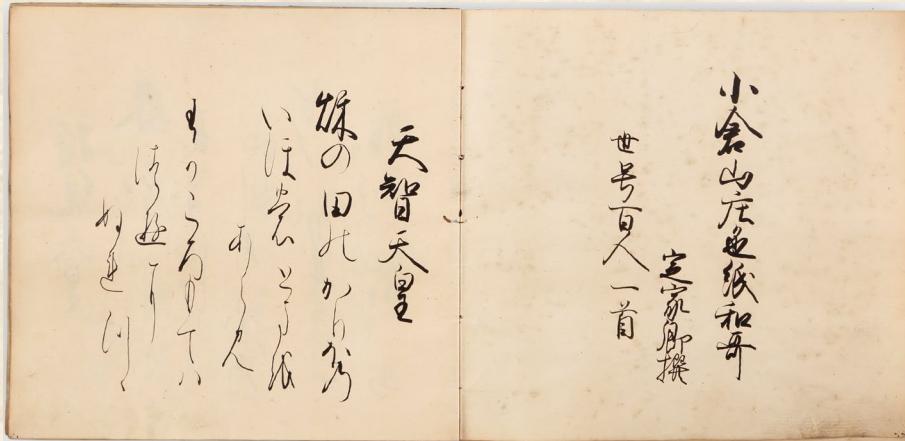
『古今和歌集』 刊一冊



『古今和歌集兩度聞書』 写 一冊



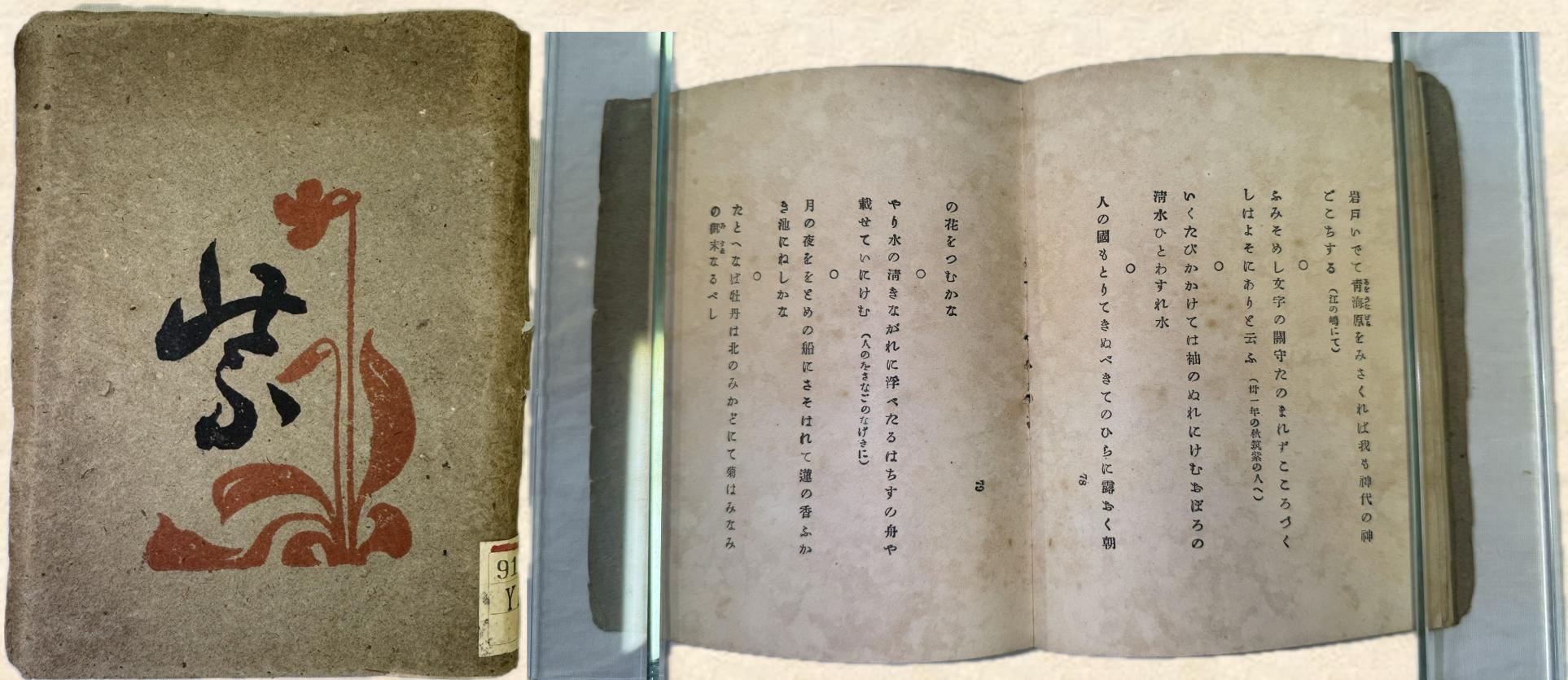
『小倉百人一首』 (杉本図書館所蔵)



『小倉擬百人一首』 (杉本図書館所蔵)



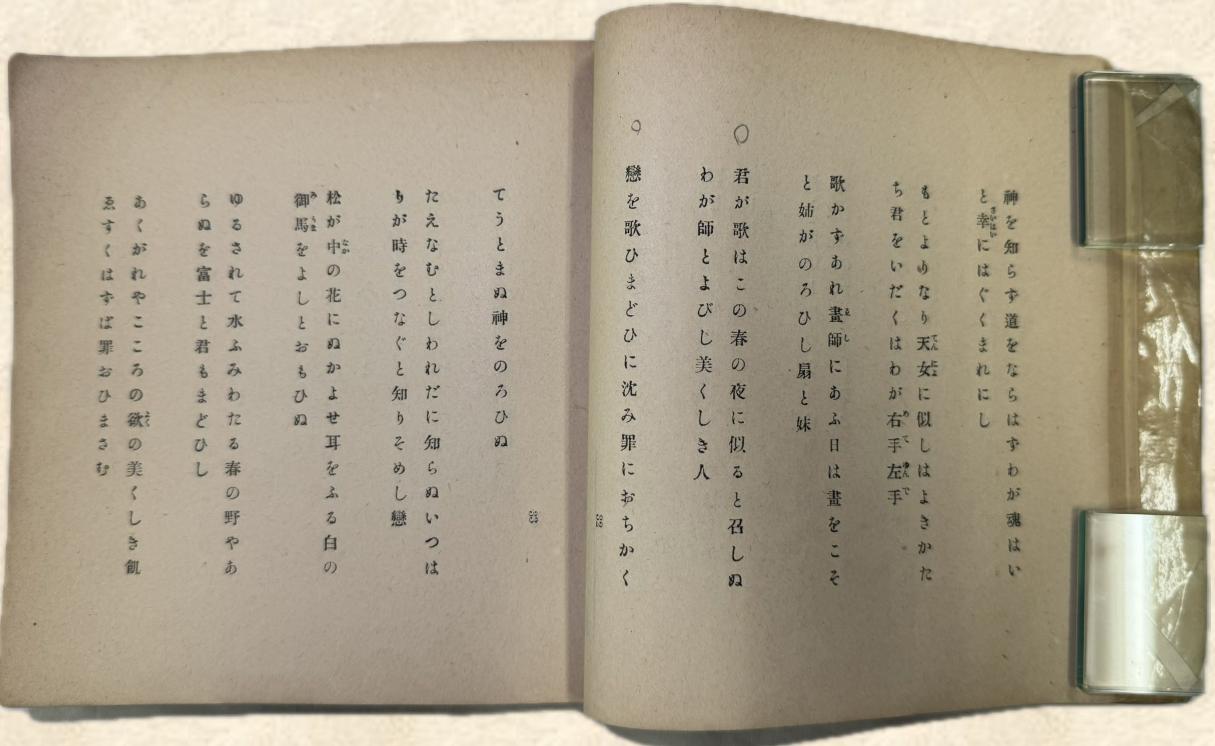
『むらさき』 與謝野鐵幹著
東京新詩社 明治34年(1901)



『みだれ髪』 與謝野晶子著 四版(訂正改版)
金尾文淵堂 明治37年 (1904)



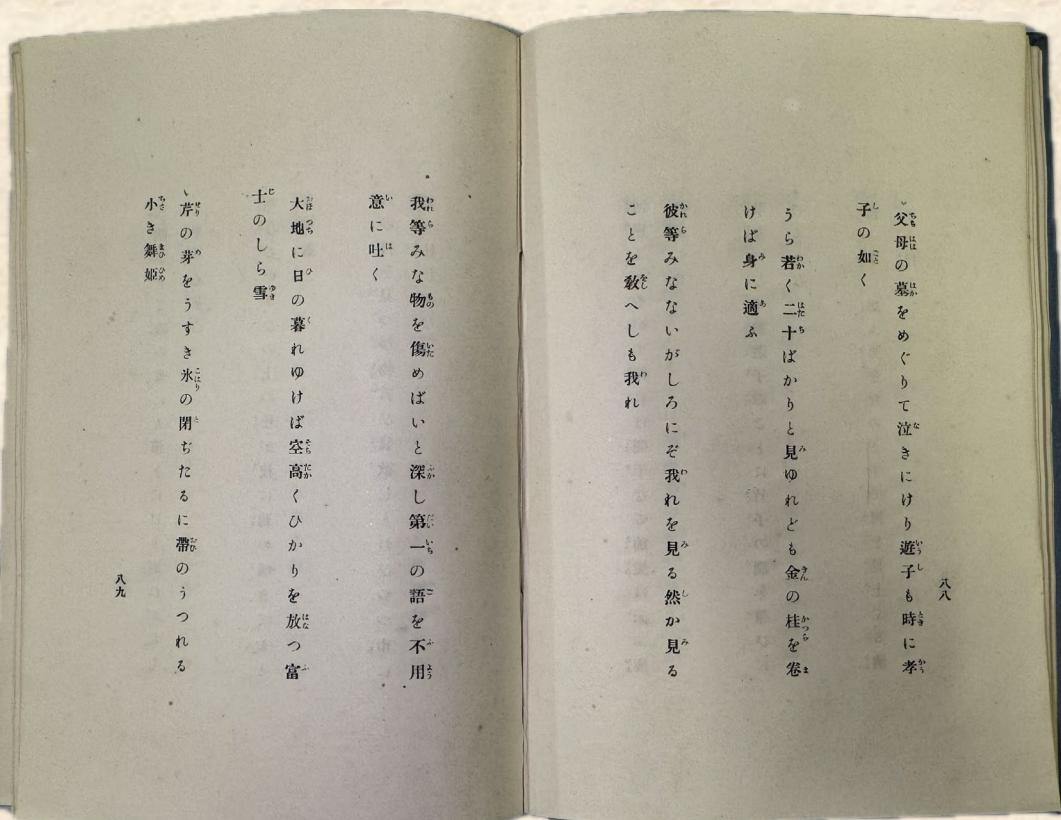
『毒草』 與謝野鐵幹、與謝野晶子共著 訂正再版
本郷書院 明治37年(1904)



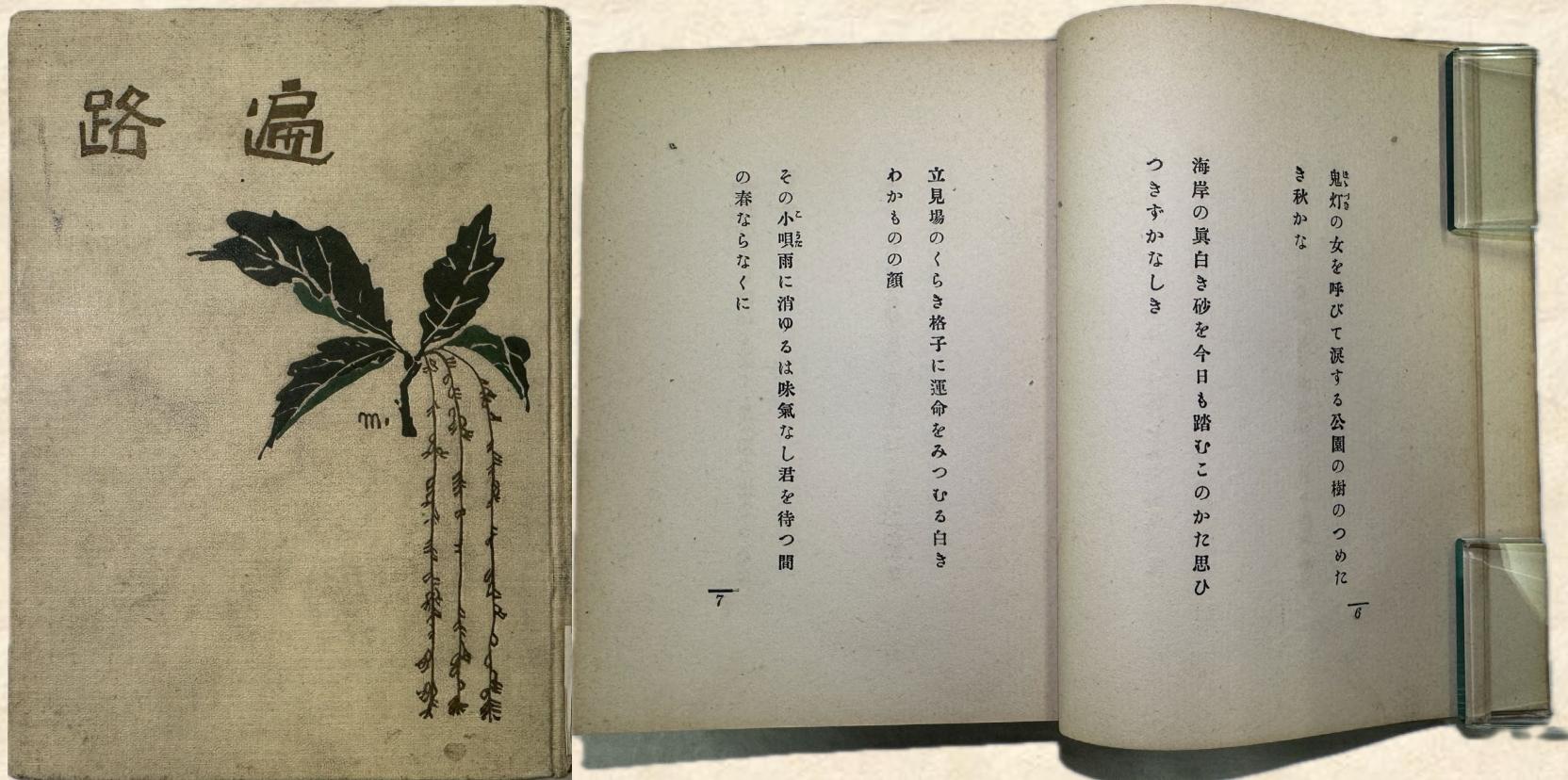
『火の鳥』 與謝野晶子著 金尾文淵堂 大正8年(1919)



『鴉と雨』 與謝野寛著
東京新詩社 大正4年(1915)



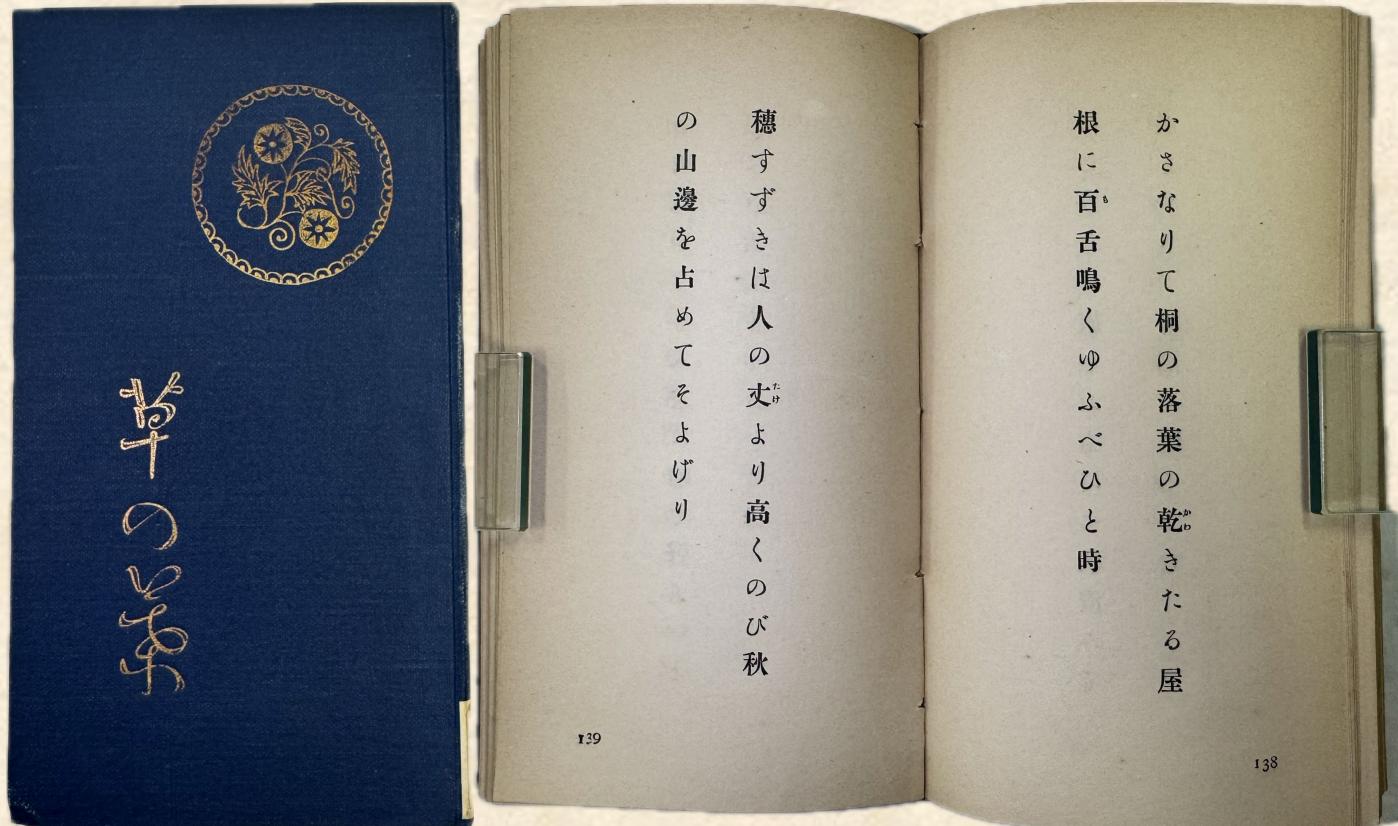
『遍路：歌集』 石川宰三郎著
南北社 大正3年(1914)



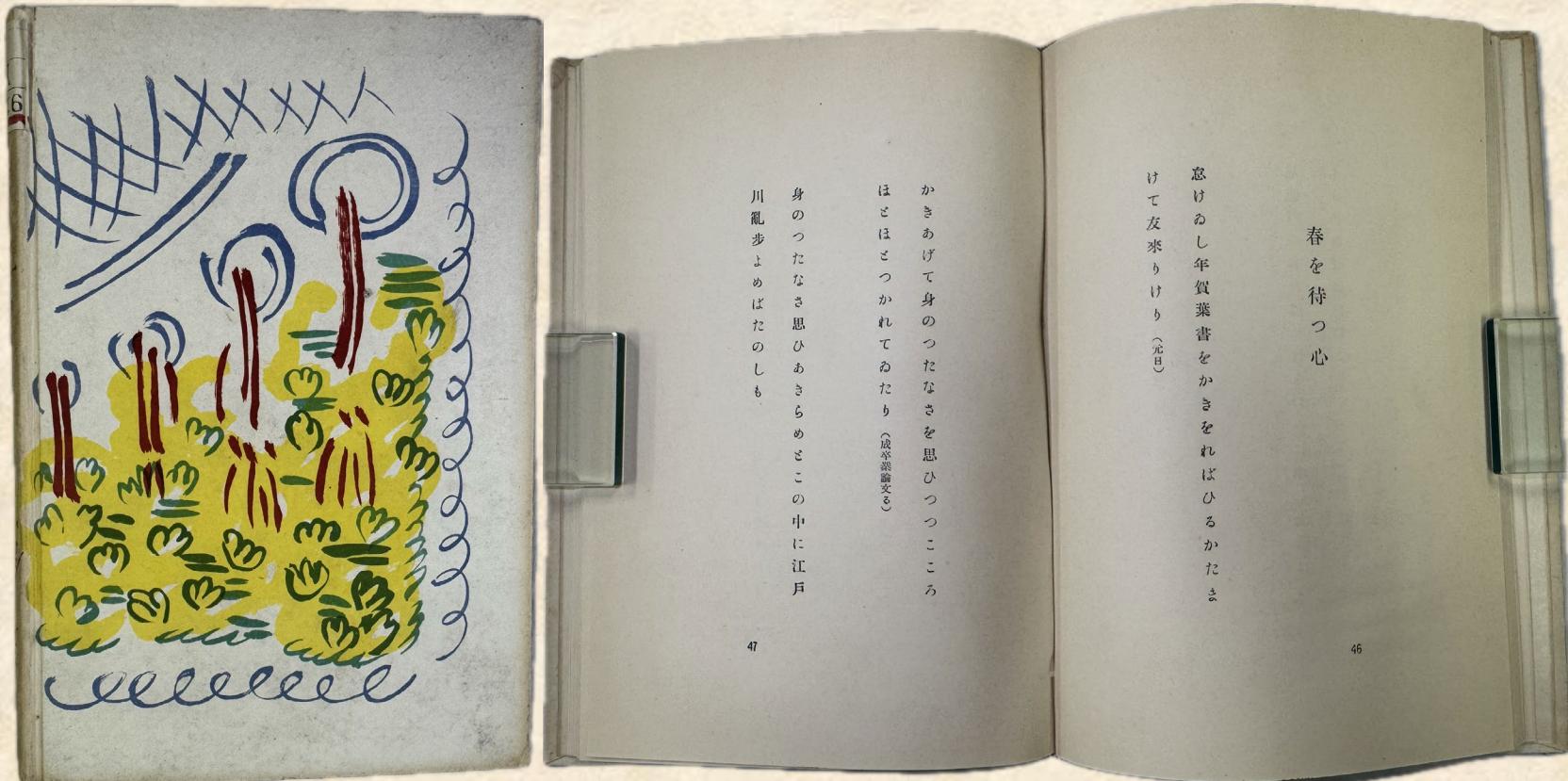
『夕ばえ』 野口精子著
警醒社書店 大正4年(1915)



『草の葉』 渡辺湖畔著
天弦堂書房 大正6年(1917)

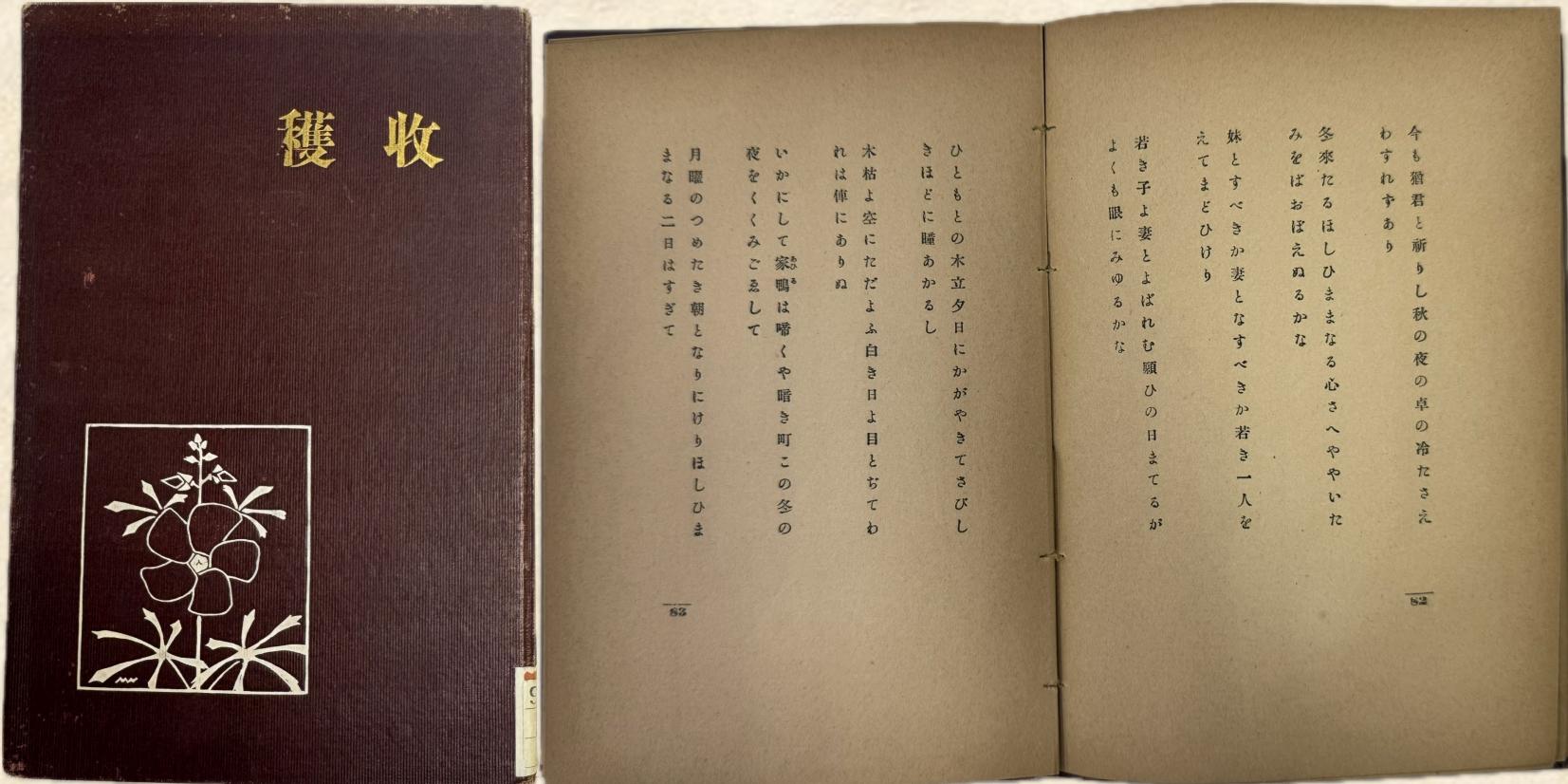


『春の鋪道』 山崎敏夫著 再版
水甕社 昭和4年(1929)



『収穫』 前田夕暮著 増補再版

東雲堂 明治43年(1910)



今も猶君と祈りし秋の夜の卓の冷たされ
わすれずあり

冬來たるほしひままなる心さへややいた
みをばおぼえぬるかな

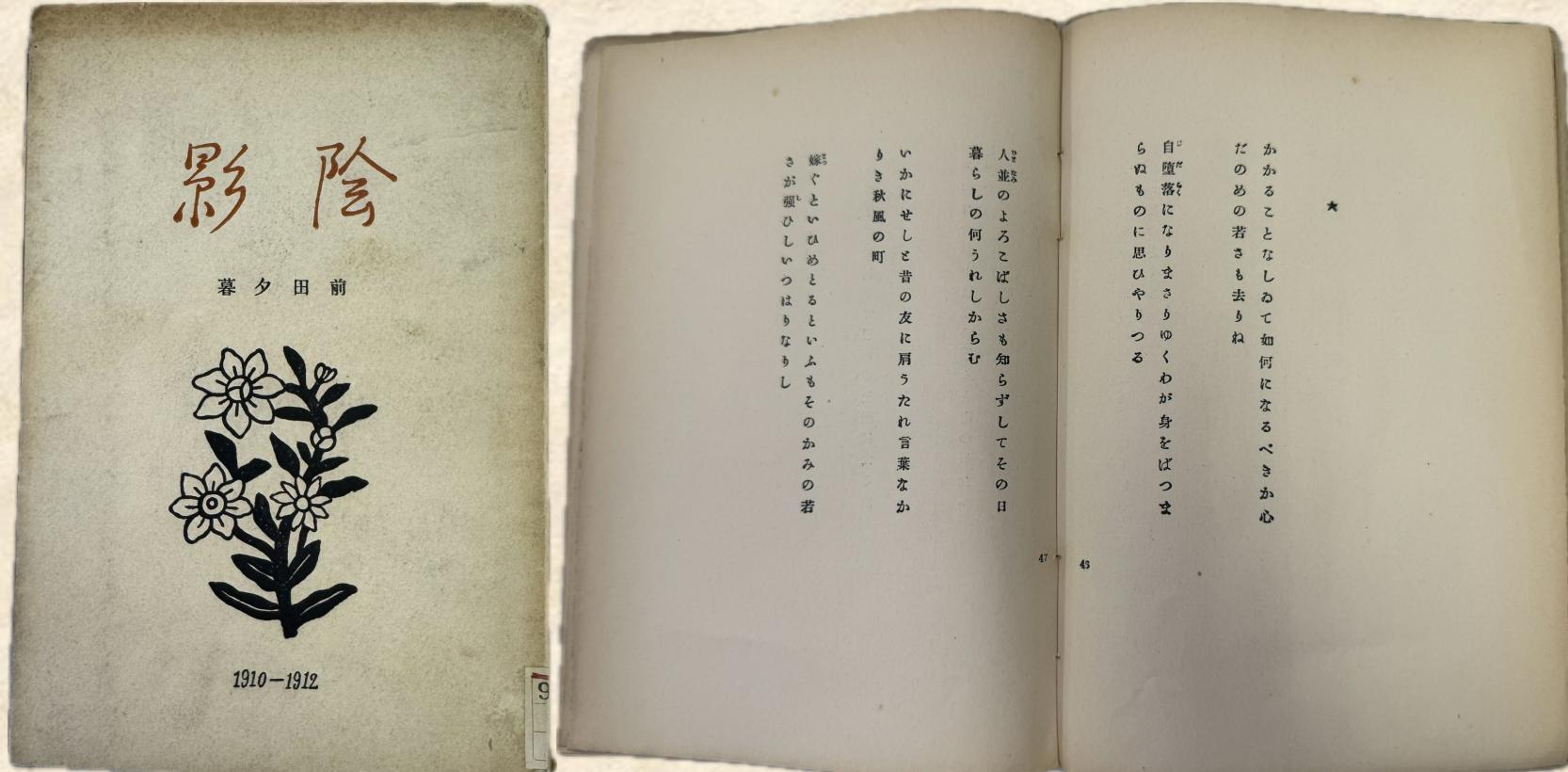
妹とすべきか妻となすべきか若き一人を
えてまどひけり

若き子よ妻とよばれむ願ひの日まとれるが
よくも眼にみゆるかな

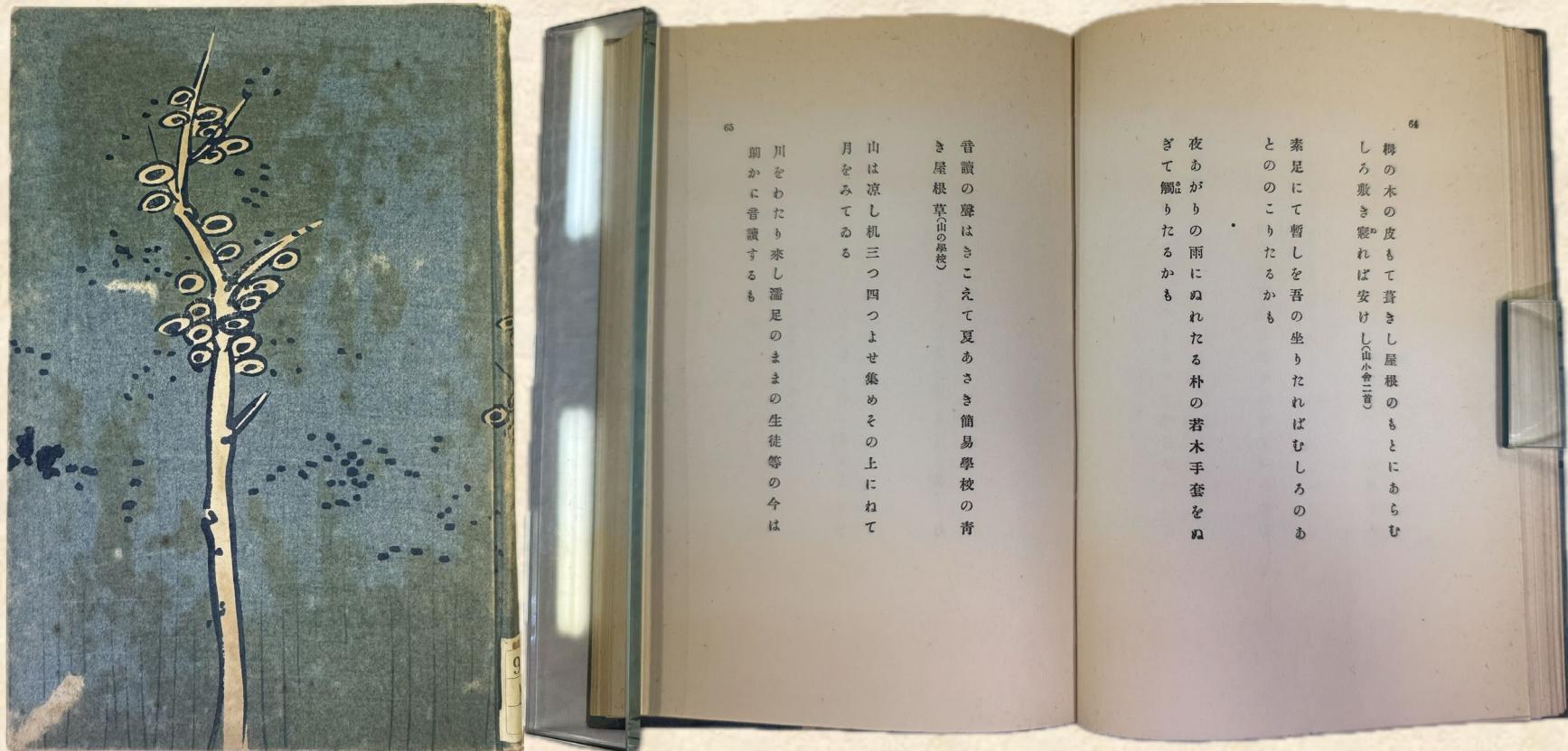
ひともとの木立夕日にかがやきてさびし
きほどに瞳あかるし
木枯よ空にただよふ白き日よ目とちてわ
れは涙にありぬ

いかにして家鴨は啼くや暗き町この冬の
夜をくくみごゑして
月暉のつめたき朝となりにけりほしひま
まなる二日はすぎて

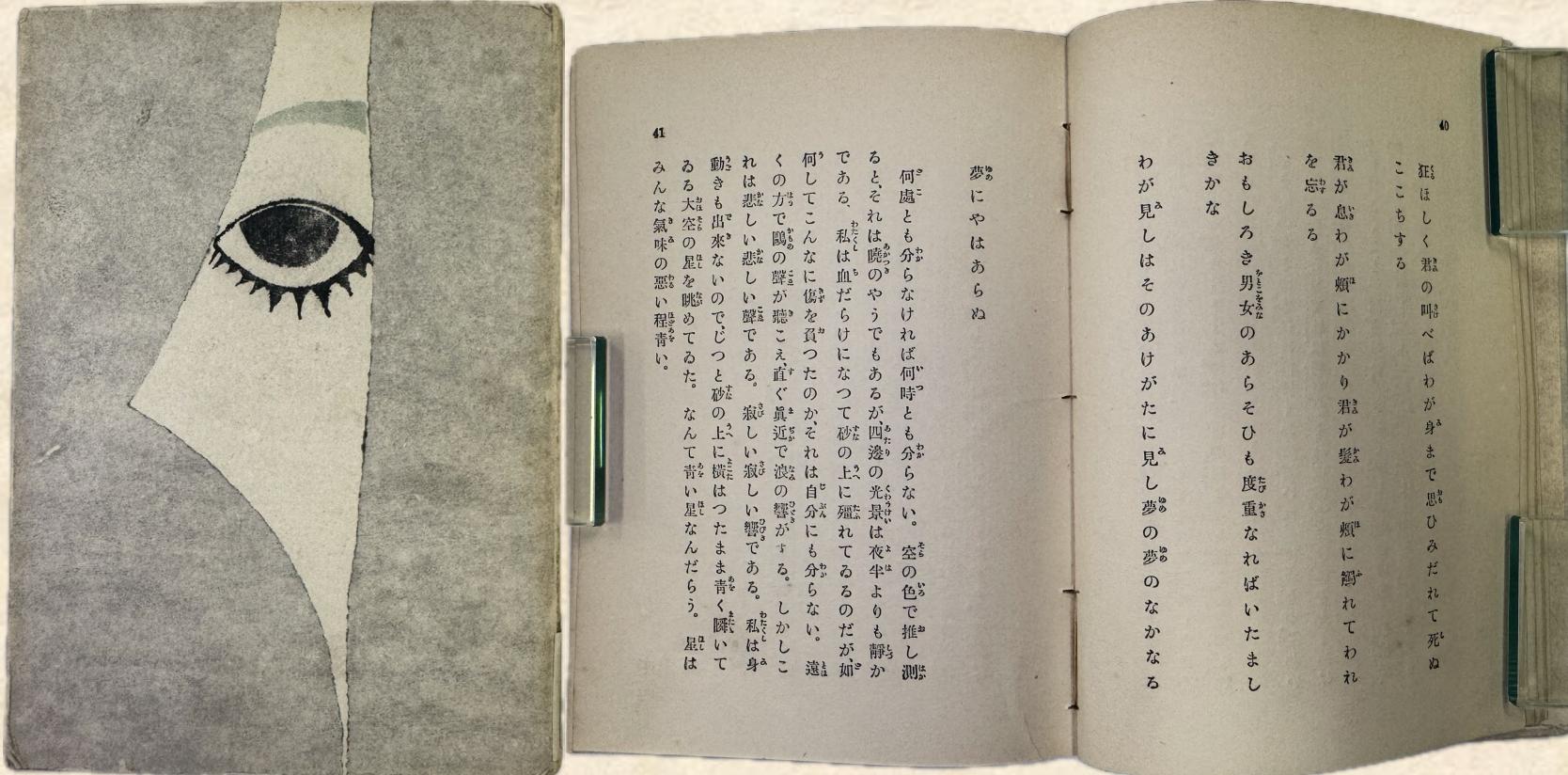
『陰影』 前田夕暮著
白日社 大正元年(1912)



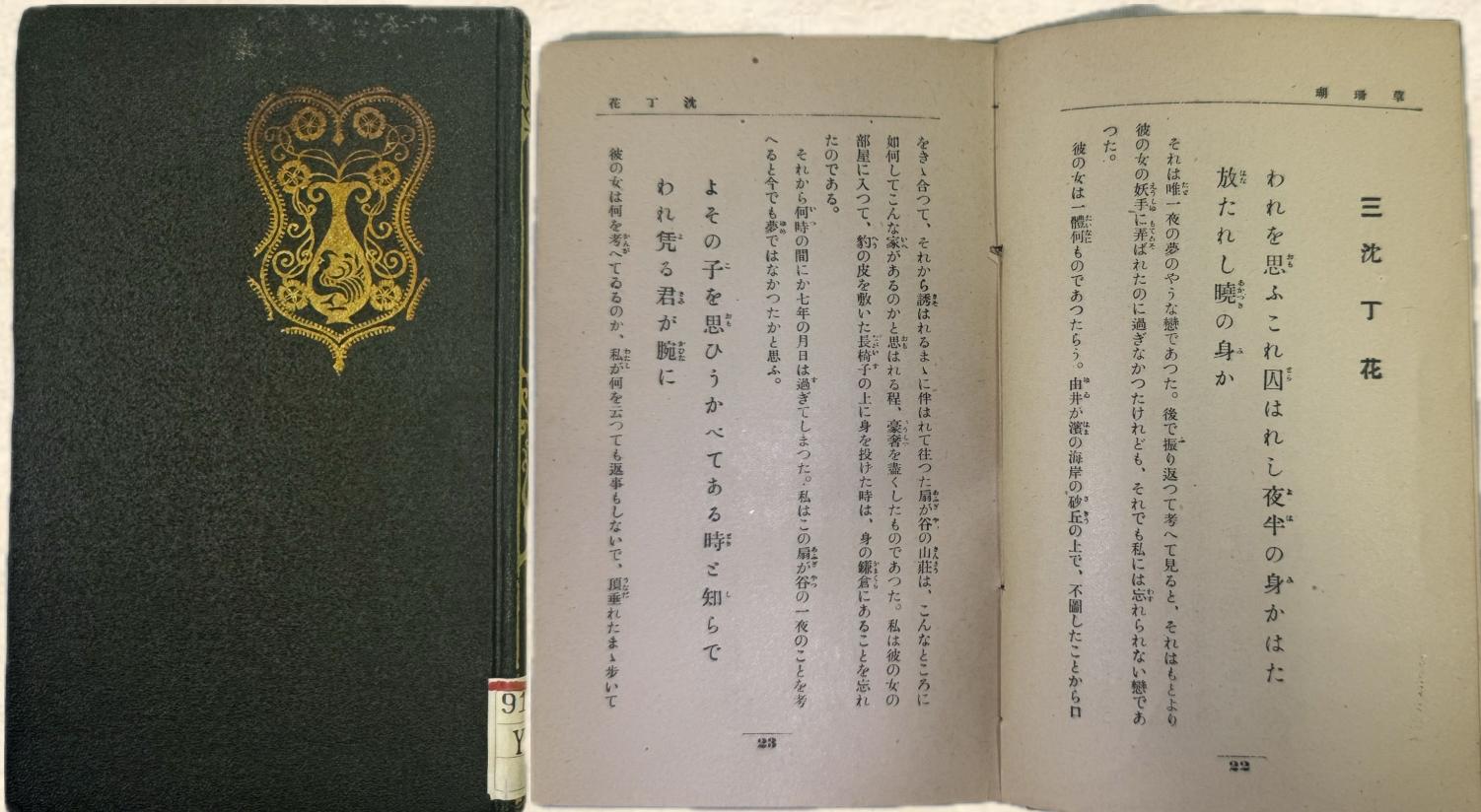
『虹：歌集』 前田夕暮著
紅玉堂書店 昭和3年(1928)



『明眸行』 吉井勇著 天弦堂書房 大正5年(1916)



『草珊瑚：自歌自釈』 吉井勇著 東雲堂書店 大正8年(1919)



『河原蓬』 吉井勇著
春陽堂 大正9年(1920)

